

# 元猿海岸再生プロジェクト

## ガンバイヒルガオ保全program

実施主体: NPO法人おおいた環境保全フォーラム

協働団体: 大分うみがめ・ネットワーク 蒲江支部

竹野浦・元猿自治会 佐伯市蒲江振興局

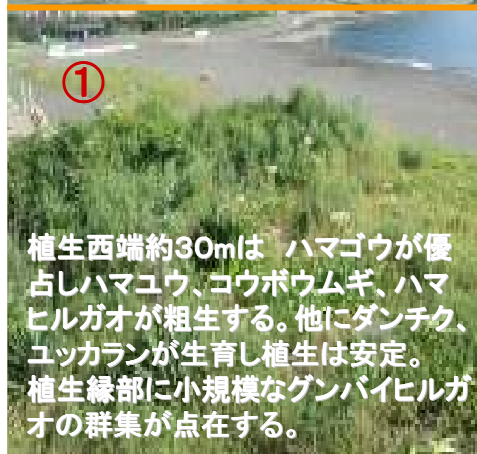
ガンバイヒルガオ(軍配昼顔、学名 *Ipomoea pes-caprae*、英名 Beach morning glory) ヒルガオ科・匍匐性の多年生草本

# ゲンバイヒルガオ・保全プログラム

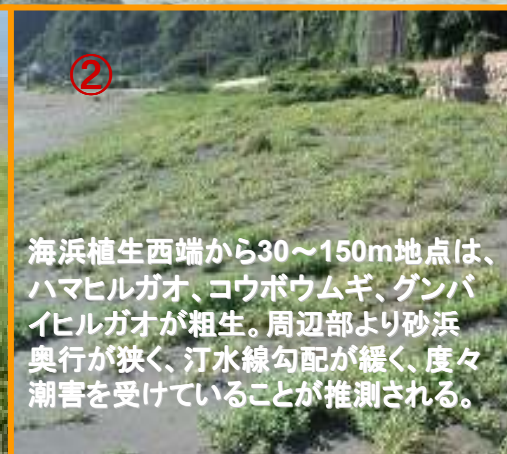
## 自生地の現状



東西約1kmの元猿海岸は、1990年代に大きく改変され海岸砂浜の3分の2に当たる西側約700mは、人工構造物等の設置により砂浜奥行が大幅に減少し海浜植生が既に消滅し東側約300mに僅かにハマヒルガオ、ハマゴウが優占する海浜植生が生育する。



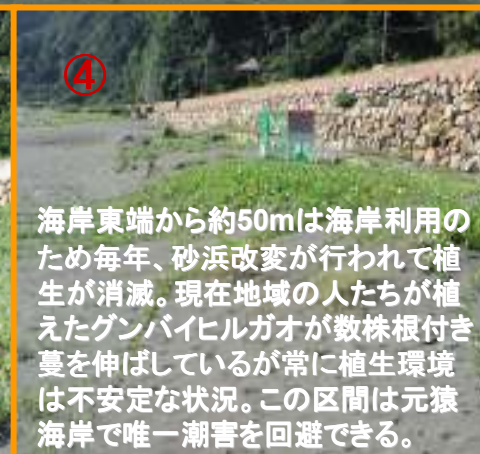
①  
植生西端約30mは ハマゴウが優占しハマユウ、コウボウムギ、ハマヒルガオが粗生する。他にダンチク、ユッカランが生育し植生は安定。植生縁部に小規模なゲンバイヒルガオの群集が点在する。



②  
海浜植生西端から30～150m地点は、ハマヒルガオ、コウボウムギ、ゲンバイヒルガオが粗生。周辺部より砂浜奥行が狭く、汀水線勾配が緩く、度々潮害を受けていることが推測される。



③  
植生中央部より約100mまではハマヒルガオ、ハマゴウが優占し植生縁部はコウボウムギが粗生。ここより海岸東端までは海岸利用のため度々砂浜形状が改変され不安定的な植生環境が続く。



④  
海岸東端から約50mは海岸利用のため毎年、砂浜改変が行われて植生が消滅。現在地域の人たちが植えたゲンバイヒルガオが数株根付き蔓を伸ばしているが常に植生環境は不安定な状況。この区間は元猿海岸で唯一潮害を回避できる。



# グンバイヒルガオ・保全プログラム

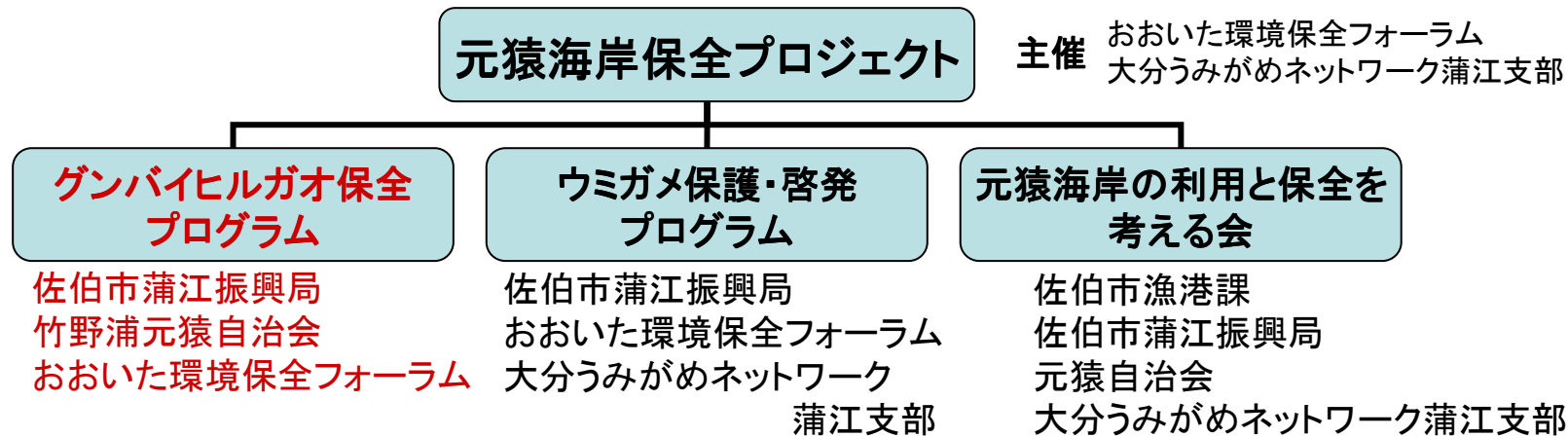
## 生育地の課題

- 海岸の改変（砂浜奥行の減少、潮害の増加）
- 砂浜利用の負荷増（オーバーユース）
- 海岸ゴミの増加（植生環境の悪化）
- 保護意識の欠如（グンバイヒルガオの認知）



# グンバイヒルガオ・保全プログラム

## プログラム実施体制



## プログラムの目的・目標

- ・絶滅危惧種「グンバイヒルガオ」を保護し大分県唯一の生育地である元猿海岸の砂浜環境を保全し将来の世代に継承する。
- ・希少な動植物が命をつないでいる海岸環境の保全活動を通じ、環境保護の啓発と意識の向上を図る。
- ・元猿海岸を、ウミガメが産卵に訪れ、グンバイヒルガオが繁茂する豊かな自然海岸に再生し、海岸の保全と適正な利用を考える環境教育の場として活用する。

# グンバイヒルガオ・保全プログラム

## 保全プログラムの概要

### 1 グンバイヒルガオ生育環境の保全活動

- ・ ビーチクリーンイベントの開催(8月、12月)-自治会との協働
- ・ 海浜植生の維持、管理活動(草刈など 9月)-自治会との協働
- ・ グンバイヒルガオ群落保護柵と啓発広報看板の設置(11月)
- ・ 適正な海岸(砂浜)利用と希少植物の保全を考える会の設立(9月)

参加団体-佐伯市漁港課、振興局、竹野浦・元猿自治会

### 2 グンバイヒルガオ保護・増殖活動

- ・ グンバイヒルガオ育苗事業の実施説明会の開催(9月中旬)-自治体、自治会
- ・ グンバイヒルガオ播種及び挿し木苗づくり(10月)-住民及び一般市民
- ・ 植樹イベントの開催(翌年6月～7月)自治会、地域住民及び一般市民の参加

# グンバイヒルガオ・保全プログラム

## 事業実施により期待される効果

- 多くの地域住民の参加、協働した保全活動により地域文化の重要な資産である元猿海岸を再認識し環境保護の意識向上に貢献。
- 元猿海岸を訪れる沢山の市民や子供たちにとって適正な海岸の利用と健全な海浜環境のあり方を学ぶ重要な環境教育の場としての活用。

## プログラムの特色

- 地域自治会との協働により地域住民の参加と自治体との連携が強化。
- 長年のウミガメ保護活動による地域との信頼関係を活用した事業の展開。
- 自治体との間に自然と共生した地域づくりという課題の共有化。
- 地域住民が参加したうみがめネットワーク組織の活用で地域社会への参画が認知。